

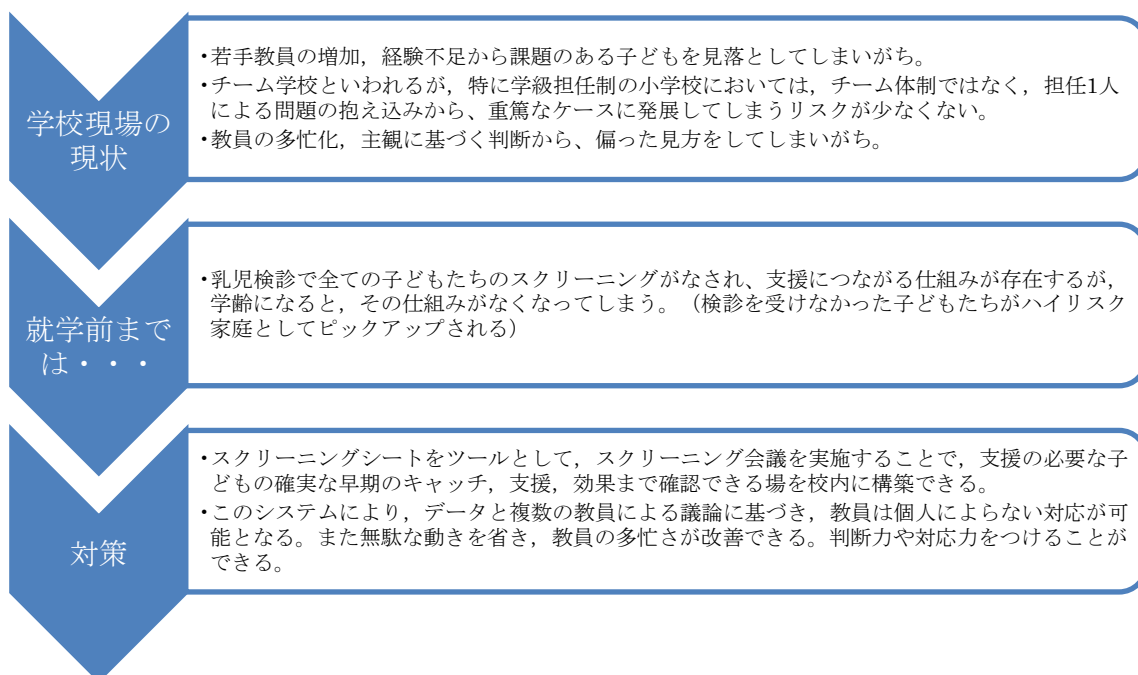
【資料1】

子どもの課題スクリーニングから支援・効果まで循環するシステム構築

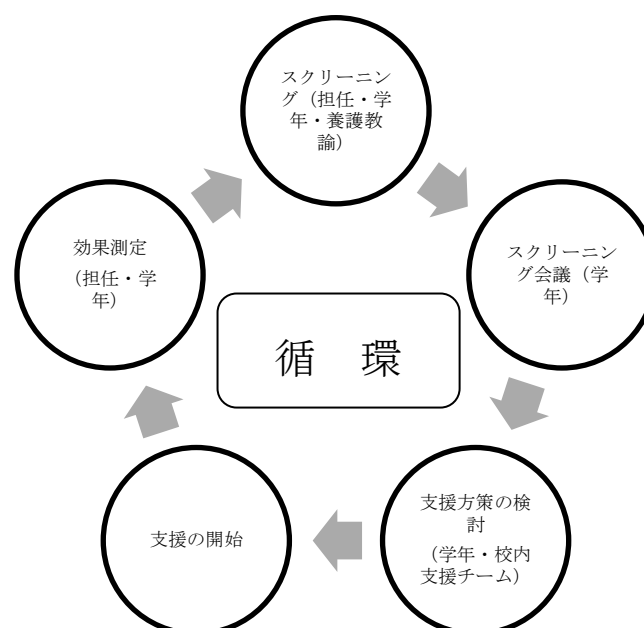
1 研究の目的

学校において全数から気になる子どもを洗い出すスクリーニングから支援の必要な子どもを確実に早期にキャッチし、支援につなぎ、効果まで確認できる循環システムをAI技術を活用して開発する。

【なぜスクリーニングを行うのか】

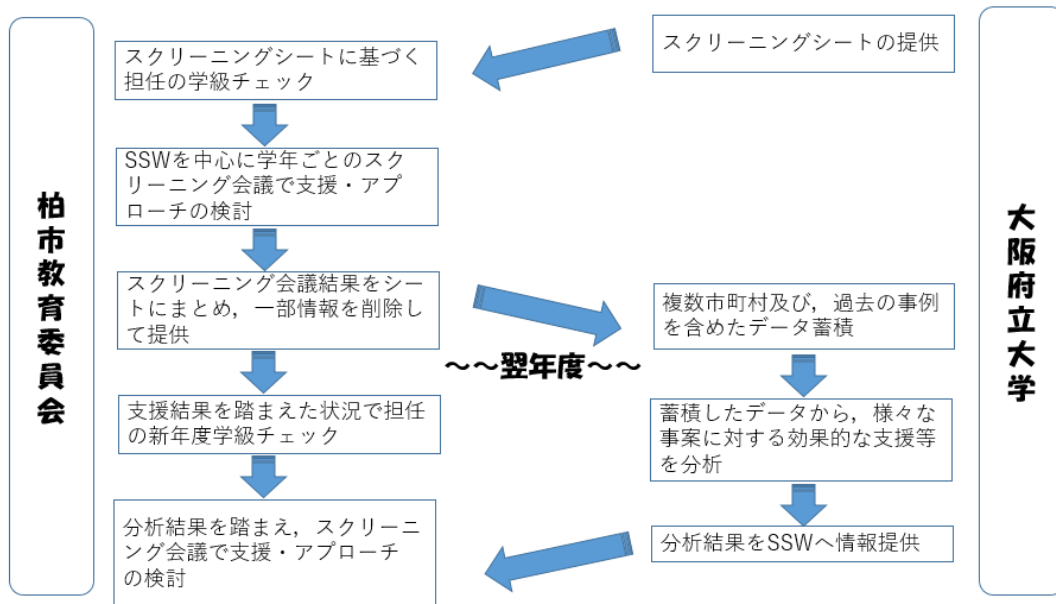


【スクリーニングシート・スクリーニング会議の流れ】



【資料 1】

【研究のイメージ・柏市教育委員会と大阪府立大学との連携】



※SSW＝スクールソーシャルワーカー

2 情報の提供方法

- ・提供するスクリーニングシートの記述そのものから個人が特定できる学校名、学年、組、氏名及び提供するスクリーニングシートのデータラベルと記述の組み合わせから個人が特定できないようにするためにデータラベルを削除した情報をCD-Rにし、書留で郵送する。
- ・データラベルについては直接大阪府立大学と共有しておく。

3 情報の管理体制について

- ・研究成果を文部科学省へ報告するほか、学術的な公表をする場合はあるが、本研究に参加する他市町村のデータも含めた集団として公表する為、学校・個人・地域が特定されることはない。
- ・研究データの保存期間は、大阪府立大学人間社会システム科学研究科が定める研究データの保存に関するガイドラインに従い、原則として当該研究期間（5年間）終了後10年とし、研究室のみで保管する。
- ・CD-Rについては暗号化し、鍵のかかる部屋やキャビネットで保管する。
- ・データ保存期間満了後のデータについては、社会通念上確実な方法による廃棄することを文書にて約すものとする。

【資料 1】

4 対象者の範囲

研究初年度は、SSW 配置済みの市内小学校 3 校程度（児童数約 1, 6 0 0 名）を想定している。研究期間（5 年間）の中で、SSW の配置状況等及び学校の実施意思などを踏まえ、最終的に概ね児童数 5 0 0 名以下の 1 0 校程度で実施し、柏市教育委員会としても効果検証したいと考えている。その上で、市全体に広げていく取り組みかどうかを決定していく。

5 現在研究に参加している自治体について

橋本市、大東市、門真市、能勢町

6 その他

- ・ 柏市教育委員会としては、スクリーニングシートを活用できること、それを用いたスクリーニング会議により、校内において学年や支援チーム体制を構築できることが利点である。
- ・ 必要に応じ、スクリーニング会議でファシリテーターを務める S S W に対し、大阪府立大学からサポートを得られる。これは、S S W の資質向上につながる。
- ・ A I での分析については、全て大阪府立大学内で行われ、企業との提携はない。
- ・ A I については、概ね 1 年後から試行予定、2 年目以降検証を行いながら、年度ごとに更新された改訂版を作成していく予定である。
- ・ 研究終了（2 0 2 6 年 3 月）以降は、必要に応じてスクリーニングシートの活用を継続（新たに委託契約が必要）、及び A I を利用（管理費は別途）する。
- ・ 委託契約（有償）を結んだ場合、柏市だけの分析（リスク要因など）を大阪府立大学によって行われる。